

# 名作文庫通信

2023年 春号



春季特集

## 叡知の書

真理とはなにか。人類の知恵が詰まった名著を紹介



04 学芸文庫

### 【荘子 内篇】

荘子/著 福永光司/訳 ちくま学芸文庫/刊

中国戦国時代中期に成立した思想書。奇抜性とユーモア、創意に満ちた寓話が多い。文章も大胆かつ詩的で、文学作品としても一流である。一切をあるがままに受け入れるところに真の自由があるという、何にも捉われない、円転自在な思想が展開している。『荘子』は、内篇、外篇、雑篇からなるが、荘子自身の思想を最もよく伝えているのが内篇だとされている。

### スピノザ エチカ

倫理学  
(上)

畠中尚志訳

スピノザ(1632-77)は「エチカ」の中に自己の哲学思想のすべてを結晶させた。典型的な汎神論と決定論のうえに立って万物を永遠の神のもとに統め、人間の行動と感情を概かす笑わず嘲らず、ただひたすら理解しようとした。ドイツ観念論体系成立のうえに大きな役割を演じ、また唯物論的啓蒙のすぐれた先駆的思想である。(全2巻)

岩波文庫  
書 615-4

### 【エチカ(倫理学) 上 下】

スピノザ/著 畠中尚志/訳 岩波文庫/刊

オランダの哲学者スピノザの代表的著作。本書では、幾何学的方法で、自身の汎神論を説き、さらに、倫理学の領域へ進んでいく。スピノザの汎神論の神は、神学者が説く神の姿と異なっていたため、著作が禁書になるなど、当時の神学者から異端視され、「無神論者」と攻撃された。そのため、スピノザは、本書を出版できないまま、肺の病気のため44歳で亡くなる。

### 「名作文庫」とは？

下井草図書館では文学、哲学、思想、歴史などの名著名作を文庫版・新書版で集め、「名作文庫」としてご紹介しています。



## 今月の1冊 心の旅を描く物語



### 【星の王子さま】

サン＝テグジュペリ/著 河野万里子/訳 新潮文庫/刊

サハラ砂漠に不時着したパイロットのもとに少年が現れる。二人は心を通わせるが、少年は奇妙な方法で自分の星へ帰っていく。謎めいた物語だが、星の光に包まれるような不思議な感動をおぼえる。作者は、この作品を出版した一週間後には、亡命していたアメリカから、アフリカへ渡り、故国フランスを占領したドイツとの戦争に参加。その翌年、偵察飛行中に消息を絶つ。44歳だった。

## 新着本 新しく入った本のご紹介



### 【闇の奥】

コンラッド/著 高見浩/訳 新潮文庫/刊

19世紀末。アフリカ大陸に派遣された船乗りマーロウは、奥地出張所で辣腕をふるう社員、クルツの噂を聞く。河を遡航し、最奥に辿り着き、そこで見出したクルツの戦慄の実像とは-。映画「地獄の黙示録」の原案となった傑作。(TRC MARKより)



### 【オズの魔法使い】

ライマン・フランク・ボーム/著 麻生九美/訳 光文社古典新訳文庫/刊

ドロシーと犬のトトは竜巻に飛ばされ、美しい魔法の国に下り立つ。故郷に帰るため、魔法使いオズに会いに行く道すがら、悩みそのないかかし、心のないブリキの木こり、臆病なライオンをお供にし…。原書イラスト25点収録。(TRC MARKより)

## 編集後記

昔読んだ本の記憶だ。アイヌは、生きるための恩恵を与えてくれるカムイ(神)に絶えず感謝していた。アイヌにとってカムイは身近な存在であった。クマはキムンカムイ(山の神)、シマフクロウはコタンコロカムイ(村を守る神)と呼んでいた。テントウムシもカムイなのだそう。なぜ、小さな昆虫がなぜ神なのか？ 答えは、かわいいから。

発行:杉並区立下井草図書館

杉並区下井草3-26-5

